

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101935		
法人名	社会福祉法人 下関市社会福祉協議会		
事業所名	下関市社協 グループホーム たんぼぼ		
所在地	下関市豊北町矢玉129番地		
自己評価作成日	平成22年12月25日	評価結果市町受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家改修型の地域に根づいた出入り自由の家庭的な雰囲気を持つ施設で、入居者と職員が、同じコミュニティで生活する仲間として関わりを持っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年2月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近隣住民にとって、現実の高齢社会のお手本であり、希望と信頼の拠点として地域に根ざした存在となっています。古民家を活かした部屋の造りやその人らしくありのままの暮らしを大切にしている職員の支援のもと、利用者は穏やかに生活されています。ケア会議や職員研修をはじめとして、利用者の詳細な生活記録を基にしたアセスメント、モニタリング、介護計画までの一貫したプラン策定までの過程は、管理者のリーダーシップと職員全体の質の高さが伺われます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中でその人らしくありのままに暮らしていけるように支援する」を事業所独自の基本理念とし、ホーム内に掲示、管理者と職員で共有し理念の実践に努めている	住み慣れた地域でありのままに暮らすということを大切にしたい理念を作成している。事業所内に掲示して、職員全員で共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	挨拶を交わしたり、世間話をしたり花や野菜の差し入れを受ける事もある。近所の店で日用品の買い物等日常的な交流ができるよう努めている	漁村ならではの近隣とのつきあいが残っており、商店、雑貨屋での買い物、散歩や畑作業などで日常的に地域の人と交流している。事業所の夏祭りには、子ども会やボランティア、運営推進会議のメンバーなどの協力があり、地域住民が多数参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、理解に向けての状況説明は行っているが、支援方法を具体的に地域の人々に向け活かすには至っていない		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営者、管理者は、自己評価、外部評価の意義について理解し、内部研修等で取り上げ職員への啓発を行い、日々のケアに活かすよう努めている。自己評価については職員全員が行っている	管理者は、事前研修で自己評価及び外部評価の意義を説明し職員は理解し、職員全員で自己評価を実施している。評価を活かして日々のケアの振り返りや見直しなどサービス改善に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの現状報告や意見交換を行い、行事の実施や防災対策等に対し理解や協力を得ている	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況報告、行事報告、外部評価への取組状況等について話し合い、意見交換してサービスの質の向上に努めている。防災対策や緊急連絡網などについて自治会や老人クラブなどの協力を得ている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談や情報交換を随時行う事で協力関係を築くよう努めている	市の介護保険課や総合支所の職員とは日常的な相談や情報交換をしている。事業所の抱えている課題については、社協の支所長を通して市と協力しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修などで学習、理解し職員全員で実践に取り組んでいる	身体拘束については内部研修で学習し、職員全員で理解を深めており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。特に、「安全」を常に意識したより良いケアの実践を目指して介護力を高めていくよう努めている。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修などで学習、理解し職員全員で防止に努めている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修(介護保険制度)で学ぶ機会はあるが、活用の機会はなく支援には至っていない		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書、重要事項説明書に沿って説明を行い理解、納得を得られるよう努めている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口、外部機関、第三者委員等明示している。適切にコミュニケーションをとる事で、意向を汲み取り、家族会や面会時に意見や要望を聞き、運営に活かすよう努めている	家族の訪問時や電話、年に3回の家族会等で、個別に意見や要望などを聞いており、その内容を運営に反映させている。苦情相談窓口及び担当者、苦情解決責任者、外部機関を明示し、苦情処理の手続きも明確に定めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや研修(内部)の中で聞く機会を設けており、反映できるよう努めている(業務内容の変更、施設設備の改善等)	毎日の申し送りやミーティングで、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は、業務の内容や、設備の改善など、職員がどんなことでも言いやすい関係を作るよう心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めてはいるが、整備には至らない		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に研修計画を立て参加する機会を設けており、研修、トレーニングの重要性を認識している	計画的な研修の機会が設けられており、外部研修や資格取得のための勤務体制の配慮など、職員が積極的に学べる機会を確保している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会開催の情報提供や法人内の運営会議、グループホーム連絡会議での情報交換や勉強会によりサービスの質の向上に取り組んでいる		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人を取り巻く環境を理解し、訴えに耳を傾け信頼関係を築くよう努め、相談しやすい雰囲気づくりに配慮している		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の抱えている不安ニーズを捉え、信頼関係を築くよう努め、相談しやすい雰囲気づくりに配慮している		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階で必要な支援に優先順位をつけ問題解決を図り、場合によっては、在宅介護支援センター、包括支援センター、行政へ繋ぐよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの基本的な考え方であり、日々の生活の中で互いに喜怒哀楽を共有し、生活を共にしている者としての支えあいを大切にしている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの基本的な考え方であり、日々の生活の中で本人を軸に互いに喜怒哀楽を共有し、共に本人を支えて行く関係を築けるよう取り組んでいる		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元で人の多く集まる美容院での整髪や、季節の祭りへの参加支援をするなど、知人や友人と会う機会の確保に努めている	昔ながらの地域の春祭りや秋祭り、三社参りに参加したり、馴染みの美容院に行ったり、家族の協力を得て、地元の運動会への見学など、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に過ごす活動の時間帯を設けたり、位置取りの工夫や仲間づくりを支援し、利用者同士のかかわりが持てるよう配慮に努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、いつでも相談や支援に応じるよう努めており、移動先への面会も随時行い関係を断ち切らないよう配慮している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の様子から汲取れない場合は、家族会や家族、知人の面会時に職員(主に担当)が聞き取りを行い、ケア会議、アセスメント作成時に情報の積み上げを行い検討している	アセスメントで家族からの情報や生活歴を詳細に把握し、日々の利用者の生活や行動記録の情報を積み上げ、希望や意向を把握するよう努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族会や面会時に職員(主に担当)が聞き取りを行い、ケア会議、アセスメント作成時に情報の積み上げ、検討を行い整理、共有し把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントや介護計画書①、②を作成やケア会議、ミーティング等での状況確認により一日の過ごし方や生活の流れ、身体状態、有する力等の把握に努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント作成、ケア会議の実施(月/1回)時の情報の積み上げや整理、概ね3ヶ月に1回検討を行い、職員(主に担当)が原案を作成、計画作成担当が取りまとめを行い作成している	計画作成担当者、利用者の担当職員を中心に、ケアカンファレンスを毎月1回開催し、利用者情報、家族との面会時や電話連絡時の要望を参考にしながら介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のサービス提供記録に総括的に記入し、確実に閲覧(押印)する事で情報の共有を行い、計画書の見直しに活かしている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、訪問診療、美容院への送迎の支援等柔軟な支援に取り組んでいる		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や自治会長は運営推進会議のメンバーにも入っており、避難訓練や行事参加時は協力を得ている 又神玉駐在所への情報提供や巡回コースへの要請を行う等支援に努めている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	独自の医療情報提供書を受診時医師へ提示しており、緊急の場合を除き、家族へ受診確認を行った上で往診依頼、通院支援を実施している	事業所の協力医は元々のかかりつけ医でもあり、定期的な往診のほか、緊急時や、不安なときでも快く受診が出来るよう協力してもらっている	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフに看護職員がおり、医療機関との連絡調整や受診支援、健康管理を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	短期で退院できるよう入院時に、治療計画の参考になるようホームの待機期間を告げ、本人の生活状況を情報提供している。又随時家族からの情報収集や本人の状況確認を行い、退院時は医療関係者から情報提供を受ける等、連携に努めている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、家族会の際、施設の方針について説明を行い、協議により方針を共有している。急変時については、主治医や家族と連携をとりながら対応している	契約時に、重度化した場合の対応について説明すると共に、状態の変化があるごとに家族の気持ちや利用者の思いに注意を払い、利用者・家族・関係者と相談しながら次の支援につなげていくことへの方針を全員で共有している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	利用者の急変時の対応は、他機関(消防署)の協力の下、蘇生法など研修、訓練をしている	一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むために、介護現場で起きうる事故(火傷、転倒、誤嚥、行方不明等)を想定した研修を行っている。毎年、全職員を対象とし、定期的に急急手当や心肺蘇生の訓練を実施している。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練実施(1回目内部で実施、2回目運営推進会議メンバー、消防署の協力を得て実施)や緊急連絡網整備により協力体制が構築されている	事業所独自の避難訓練のほか、運営推進会議メンバーや地域住民と一緒に避難訓練も実施している。緊急時連絡網や支援体制を整備するなど、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護、個人情報の保護、人権を尊重した対応に努めている	行政との合同会議では、プライバシー保護に関する事例検討を重ね、事業所でも個人情報保護とプライバシー保護に関する研修を実施している。日常的に、利用者の自尊心を傷つけない対応に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合ったコミュニケーション方法を把握し 適切な支援により意志の表出を図るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況に合わせて、夜更かし(夜遅くまでテレビを観る)や眠れなかった日は朝寝坊をするなど、利用者のペースに合わせた支援に努めている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	概ね3ヶ月に1回程度、なじみの美容院を利用し整髪、外出時は化粧をしたり行事(夏祭り)参加時は、浴衣を着たり、その人らしいおしゃれができるよう支援に努めている		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体状況や持てる能力に応じ、食べた食器を重ねたり、台を座ったまま拭いたりしてもらい、スタッフも一緒に食事を摂るようにしている	摂取カロリーや栄養バランスを考慮した献立の工夫をしている。料理の味見や配膳、片付けなど、利用者のできることを一緒にしながら、職員は同じテーブルで同じものを食べ、食事を楽しむことができる様に支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量のチェックを行い記録し、個々の状態に合わせた支援(食材の加工、摂取介助等)を実施しており、毎月の体重測定値や栄養士への情報提供等により栄養バランス、摂取量の調整を図っている		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の個々に合わせた口腔ケアの徹底実施、毎日夜間に使用後の歯ブラシ、コップの消毒を行い、義歯は1ヶ月に6回ポリドント処理し清潔保持に努めている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄サインの見極めや最終の排泄時間の確認を行いながら日中はトイレ誘導、夜間は自室にポータブルトイレを設置し誘導、夜間はパンツ型オムツ昼間は布パンツへの移行を実施し、個々の状況に応じた支援に努めている	利用者の排泄パターンをよく把握しており、時間を見図りながらの声かけや誘導で、排泄の自立に向けた支援をしている。夜間のポータブルトイレでの対応や、オムツから布パンツへの移行など、利用者の状況に応じた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を作成、情報を共有し、水分摂取支援や食材、メニューの工夫(きな粉牛乳、ヨーグルト)身体を動かす事による腸蠕動運動亢進に取り組んでいる		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりのタイミングに図り、声をかけ意向を確認しながら、2日に1回、3時以降実施しているが状況に応じ毎日実施する事もあり、個々に応じた支援に努めている	入浴は毎日可能で、15時から17時までの間に、一人ひとりゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。入浴を嫌がる場合などは、清拭等で対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠時や外出後等、個々の状況に応じて居室の照明や温度を調整し、休息誘導を実施している(冬期は、湯たんぽ、電気毛布使用)		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルや健康管理記録に処方箋を綴じ、薬剤の内容把握に努め、服薬時は、必ず口腔内への薬剤投入を確認している、薬剤の変更時は ミーティングで申し送り情報の共有を行っている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや情報提供により、本人の思いや意向を把握し、好きな歌手のビデオ視聴やタオル おしぼり畳等個々の力を発揮し、楽しめる場面作りを行い支援に努めている	誕生会や季節行事、利用者一人ひとりの趣味、嗜好を大事にし、好きな歌手のビデオを鑑賞したり、好きなテレビ番組を見るなどそれぞれが思い思いに過ごせるよう支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通院、美容院の利用、散歩等随時支援している他の事業所での行事参加(七夕)や初詣等へは出かける機会を持つ事ができたが、家族参加の小旅行には、ボランティアのみの参加となった	利用者のその日の希望や体調に応じて、近所への散歩等、戸外に出かけられるよう支援している。七夕や節分などの季節行事への参加、なし狩りやボランティアの人と一緒に小旅行など気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭を所持している利用者はいない		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や家族からの手紙は受けとっているが返事を返すには至っていない		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間に季節の花を活けたり、居室には季節感のあるカレンダーを掛け、心地よく過ごせるような環境作りに努めている	民家の風情そのままが残された居間にはソファやテレビが置かれ、季節の花が飾られ、利用者が思い思いに過ごせるような工夫があり、生活観や季節感を採り入れた居心地のよい共用空間となっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを設置、食堂でも定位置で思い思いに過ごせるように工夫している		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や仏壇、タンスなどを持ち込み利用者の居心地の良さに配慮している	使い慣れたタンス、家族の写真や絵画、人形などが持ち込まれており、利用者が安心して過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内に設置された福祉用具(手すり、ベッド、車椅子)を使用し、個々の状況に合った適切な支援により、安全に日常生活が送れるように取り組んでいる		